

~~~~~オランダ帆走客船「スタッド・アムステルダム」紹介~~~~~



(ランスタッド提供)



(本船のサイトより)

個人会員：小池 克己

去る5月、横浜と神戸にオランダ帆船「スタッド・アムステルダム」Stad Amsterdam が初めてやってきた。公的機関の練習帆船かと思ったら、そうではなくクルーズ客船だという。事実日本へはホノルルから到着し、25人ほど乗客がいたと聞いた。日本からは中国へ向かい、神戸～上海の航海で乗客を募っていた。さらにその先は豪州、アフリカ方面に向かう予定になっている。

横浜で本船を見る機会があったので、以下に概要と写真などをまとめてみた。船上で見聞きしたことを Web ページで捕捉し、Sea Web も参照した。興味のある方はホームページをご覧になれば、もっと詳しいことが分かります。<https://www.stadsterdam.com/en/>

●オランダのダーメン造船所で建造

19世紀の快速商船（いわゆるクリッパー）デ・アムステルダム De Amsterdam (1854年竣工) を模した三檣シップ型帆船として2000年に竣工。レプリカではなく、設計は元プロセーリング・チャンピオンで著名な造船技師ジェラルド・ダイクストラが担当、船体は鋼で、クリッパーの最終形態の船体ラインを採用したうえで、今日の技術でこれを改良し性能をさらに向上したそうだ。貨物船ではなく客船として計画されたため、本来のクリッパーより長さは長く、幅も広くとなっている。竣工翌年の2001年に「カティサーク・トール・シップス・レース」に参加し、優勝した経歴を有する。

主要目は723総トン、全長76メートル（船体 OA66.56、BP53.93）、幅10.5メートル、深さ6.45メートル、吃水4.2メートル、総帆数31枚、総帆面積2,200平方メートルで、帆走で17ノットを発揮できるという。補助エンジンはCaterpillar C32型ディーゼル1基746kW(1,014hp)、機走速力11ノット。バウスラスターを1基備える。補機として同じくCaterpillar C7.1型発電機118kVAを2基装備。船級はLR +100 A1、クラス符号はsailing passenger shipである。建造費は約1,600万ユーロだった。（要目はSea Webと本船のサイト、その他Webサイト参照）

キャビンは全14室。シャワー・トイレ付きで広さ11平方メートルとそれほど広くはない。各



横浜港ふかり桟橋に舫ったところ（5月10日撮影）



反対舷（同）



レセプション（ランスタッド提供）



ロングルーム（ランスタッド提供）

室には世界の港湾都市名が付けられている。公室としてダイニング、ラウンジ・バー、イベントホールなどを兼ねた「ザ・ロングルーム」(The Longroom) がプープ・デッキ下に設けられており、入口付近には書籍も置かれ図書室としても利用される。クルーは 26 名で、10~12 の国籍を持つ。乗客定員は 1 泊以上のクルーズで 26 名、EU 域内のデイ・クルーズは 115 名、練習船時は 52 名、港でのイベントなどでは 200 名となっている。

本船のサイトの説明では、通常は地中海やカリブ海でのクルーズを実施しているそうだが、これまで本船について、ネットなどでも見たことも聞いたこともなかった。一般のクルーズ会社が運営するクルーズとは趣が違い、販路も違うのだろうと思う。あるいはチャーター・ベースが多いのかもしれない。そのほかは、アムステルダム帆船祭のフラッグシップ（後述）を務めたり、海員育成のための練習航海などを行なっているようだ。

今回 2023 年 10 月から 2025 年 8 月まで、2009 年に次ぐ 2 回目の世界周航で 18 カ国を訪問しており、横浜へはホノルルから到着（5/5~18 滞在）し、神戸寄港（5/20~27）後は上海へ向かった。ちなみに神戸～上海（9 日間）の乗船料金は 1,375 ヨーロ（2 名 1 室の 1 名分）とのこと。3 人部屋、1 人部屋の料金設定もあると聞いた。

●アムステルダム市と人材サービス会社が共同オーナー

本船はアムステルダム市とランスタッドという人材サービス会社が共同保有し、ランスタッドが運航している（オペレーターは Stad Amsterdam BV）。ランスタッドは 1960 年にオランダで創業した人材サービス会社で、本社は現在もオランダ。世界 39 の国と地域に拠点を置き、2023 年の売り上げは約 4 兆 3,500 億円に上る。これは同年の人材サービス企業の売上ランキングのトップとのことで、同社は世界最大級の人材サービス会社といわれている。



キャビン（2人部屋）



キャビン（3人部屋）



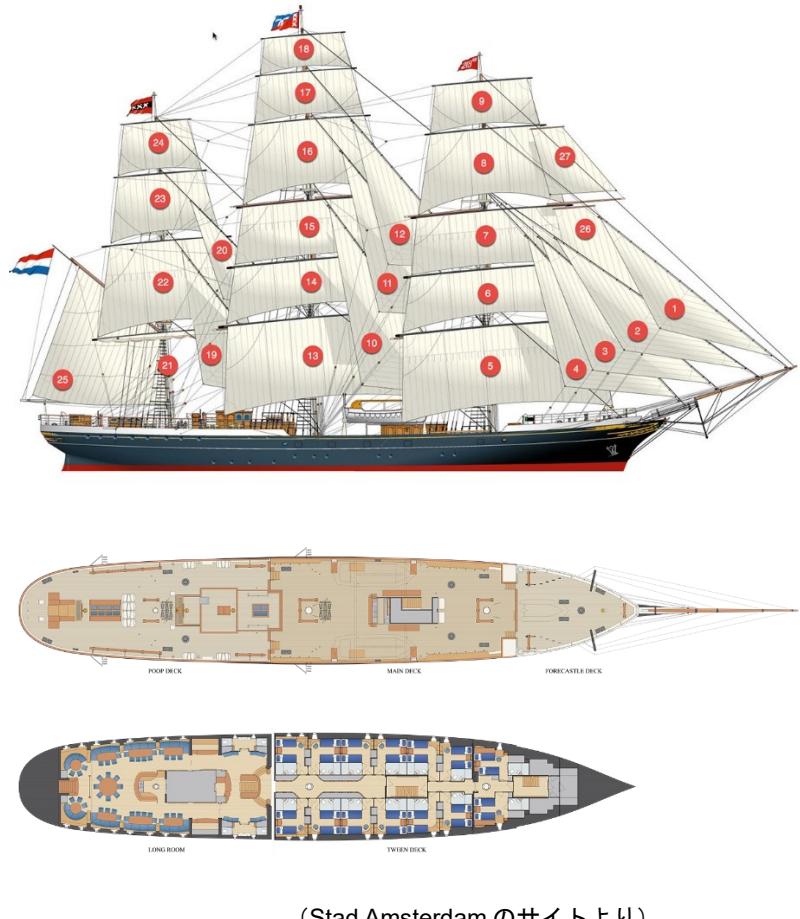
キャビン扉の銘板

01. Jager	Flying Jib
02. Buitenkluiver	Outer Jib
03. Binnenkluiver	Inner Jib
04. Voorstengenzagzeil	Fore Topmast Staysail
05. Fok	Fore Course
06. Voorondermarszeil	Fore Lower Topsail
07. Voorbovenmarszeil	Fore Upper Topsail

08. Voorbramzeil	Fore Topgallant Sail
09. Voorbovenbramzeil	Fore Royal
10. Grootstengenzagzeil	Main Topmast Staysail
11. Grootstengzagzeil	Main Gallant Staysail
12. Grootbovenbramstagzeil	Main Royal Staysail
13. Grootzeil	Main Course
14. Grootondermanszeil	Main Lower Topsail

15. Grootbovenmarszeil	Main Upper Topsail
16. Grootbramzeil	Main Topgallant
17. Grootbovenbramzeil	Main Royal
18. Scheizel	Skysail
19. Aap- / Kruistengenzagzeil	Mizzen Topmast Staysail
20. Vlieger- / Grietjesstagzeil	Mizzen Topgallant Staysail
21. Bagijn	Crossjack

22. Kruiszell	Mizzen Topsail
23. Ondergrietje	Mizzen Topgallant
24. Bovengrietje	Mizzen Royal
25. Bezaan	Spanker
26. Voorondermarsleizeil	Fore Topmast Stunsails
27. Voorbramleizeil	Fore Gallant Stunsails



(Stad Amsterdam のサイトより)

船名の「Stad」はオランダ語で「都市」を意味する単語で、「Stad Amsterdam」は「アムステルダム市」になる。アムステルダムのオフィシャル・フラッグシップだそうだ。本船が完成した2000年開催の、アムステルダム帆船祭「セイル・アムステルダム」(Sail Amsterdam) で初めて一般にお披露目された。この帆船イベントは、1975年にアムステルダム市制700周年を記念して初めて開催され、成功裏に終了したことから、5年ごとの開催が決まり現在まで続いている。本船はこのセイル・アムステルダムでフラッグシップも務めるが(2005、10、15年)、そもそもその建造の話は1995年のこのイベントで持ち上がったのだという。2020年はコロナ禍で開催中止になったので、次の2025年はアムステルダムの750周年とセイル・アムステルダム50周年を記念し、盛大に開催される予定だ。

1997年から2000年までの建造期間のうち、1997~98年の約1年間は、ランスタッドの人材サービスの一環として、失業者138名の職業トレーニングの場としても活用された。そのためもあってか、一部仕上がり具合のよろしくない箇所があつたらしく、2013年に改装工事を施されている。船首近くにダーメン造船所の銘板が二つ掲げられていて、なぜ二つなのか尋ねたところ、そういう説明だった(上が新造時)。

ただ本船のサイトによれば、これとは別に2020(19?)~21年にサステナブル改装を施されたとあり、クリーンで高効率なエンジンを搭載したそうなので、前記のC32型は新しいエンジンのようだ。この時に排気ガス処理や廃水処理、陸上電源接続の設備も備えた。





↑横から見たフィギュアヘッド



↑右斜め前から見たところ（左）と上半身（林淳一氏提供）



← 横から見た手のアップ。薬指に指輪が見える



と神戸（23, 24 日）で船上講演会やシンポジウム、交流会を行なって、約 300 人が参加した。

フィギュアヘッドは赤毛の女性像だ。この女性は乗組員の間で「>Annie

◇赤い髪の貴婦人は、大海や荒れた海、穏やかな海や静かな海を航海し、何度も何度も乗組員たちを無事に家へ連れ帰る。

◇前方を示す左手の指の V 字は、平和とアムステルダムの自由への闘争をかたどっている。

◇金色の涙には二つの意味があり、一つはアムステルダムの悲しみと苦しみ（特にユダヤ人迫害の時代の）、もう一つは故郷、友人、家族と別れる悲しみを表している。

◇右胸の乳房を露出させているのは、彼女の自由な性格を表し、同時にネプチューンの怒りを買わないためといわれる。

◇右手に持っている地球儀は、彼女が本船を世界を旅すべく大海に導くことを表現。

◇ランスタッドのロゴを持つ結婚指輪とアムステルダムの有名な 3 つの「X」をベルトのバックルに描いているのは、アムステルダム市とランスタッドの結束を体現している。また結婚により両者にとっての夢がかなうことも表している。

横から撮影した写真では、左手薬指に指輪をはめているのが分かるが、ロゴは見えない。アムステルダムの紋章に「XX」（バツかエックスかは不明）があるのは、ネットにいろいろ出ているものの、意味や由来はよく分かっていないらしい（原語サイトにはあたってないです）。



アムステルダムの紋章

●世界周航「Sail the Seven Seas」のルート

本船は今回のワールドツアーブの前に世界周航を 1 回だけ実施している。それは「ビーグル・ジ

ヤーニー」と称し、ダーウィンの乗ったビーグルBeagleの1831～36年のルートをたどるもので、2009年9月1日にイギリスのプリマスを出港、約8ヶ月間の航海だった。その後、2020年にはSDGsをテーマとした世界周航が計画されていたが、コロナ禍で延期となってしまった。

今回の世界周航の寄港地と滞在スケジュールはおおむね下記の通りである（実際には若干変更になるケースがあるようだ）。Webサイトを見ると、7/21 時点でシドニー～ブリスベン（8/20～26、7日間）、ブリスベン～デンパサール（バリ島。9/02～25、24日間）、デンパサール～シンガポール（9/27～10/06、10日間）の航海を申し込めるようになっていて、乗船する気持ちがあつて空きがあれば普通に乗れるようだ。シドニー～ブリスベンの料金が1,080ユーロと出ているので一泊3万円ぐらいか。どなたか乗られてみてはいかがだろうか。

◇2023年

- 10月01～11日：イギリス（ロンドン）
- 10月13～19日：オランダ（アムステルダム）
- 10月27日～12月6日：ポルトガル（里斯ボン）
- 12月10～13日：カナリア諸島（ラス・パルマス）
- 12月29～31日：カリブ海（マルチニーグ）

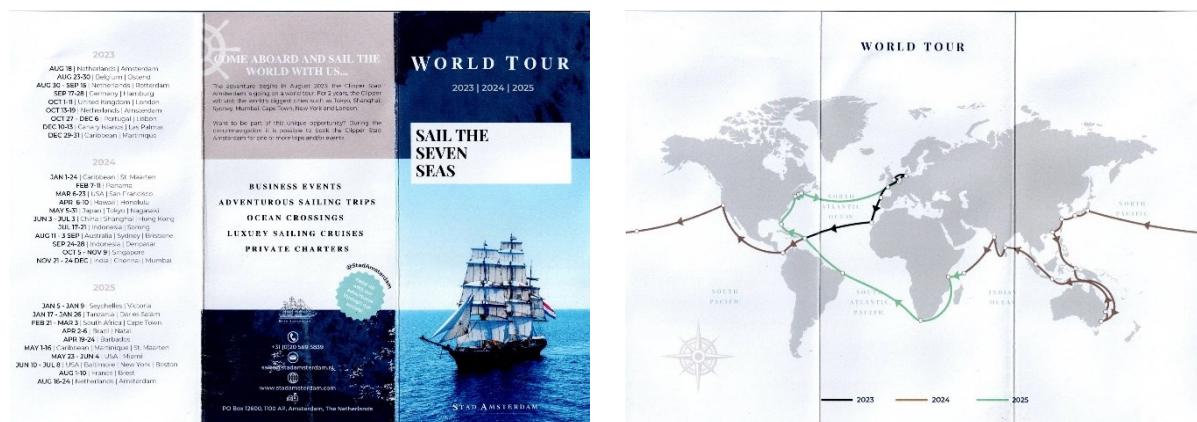
◇2024年

- 1月1～24日：カリブ海（セント・マーティン）
- 2月7～11日：パナマ
- 3月6～23日：アメリカ（サンフランシスコ）
- 4月6～10日：ハワイ（ホノルル）
- 5月5～31日：日本（横浜／神戸）
- 6月3日～7月3日：中国（上海／香港）
- 7月17～21日：インドネシア（ソロン）
- 8月11日～9月3日：オーストラリア（シドニー／ブリスベン）
- 9月24～28日：インドネシア（デンパサール）
- 10月5日～11月9日：シンガポール
- 11月21日～12月24日：インド（チェンナイ／ムンバイ）

◇2025年

- 1月5～9日：セイシェル諸島（ヴィクトリア）
- 1月17～22日：モーリシャス（ポート・ルイス）

ワールドツアーフリークレット表裏



2月9～20日：南アフリカ（ケープタウン）
3月22～26日：ブラジル（レシフェ）
4月9日～5月8日：カリブ海（マルチニーグ／セント・マーティン）
5月15～28日：アメリカ（マイアミ）
6月3日～7月1日：アメリカ（ボルチモア／ニューヨーク／ボストン）
7月27日～8月9日：フランス（ブレスト）
8月15～29日：オランダ（アムステルダム）

2025年にアムステルダムに帰還したところで、セイル・アムステルダム（8/20～24）のフラッグシップを務めることになると思われる。

●船上の様子

最後に、スペースがあるので船上画像をいくつかセレクトして掲げた。



プープ・デッキ。手前の窓は操舵室



操舵室直後の前部舵輪と時鐘



操舵室内部。近代的なディスプレイも備える。機走時の操舵はジョイスティックで行なうようだ



フォクスル・デッキ



メイン・デッキ中央のバーカウンター